

Sanzon-Hunt

はじめに

☆チャートの成り立ち(相場の成り立ち)

チャートはどのように動いているのか？

波を打ちながら、上昇や下降トレンドを形成します。

なぜ、波ができるのか？

人々(大衆)心理で動いています。⇒買いたい人と売りたい人がいるから波を打つ

買いが強ければ上昇していき、売りたい人が強ければ下降していく。
拮抗していれば、レンジ相場になる。

ただ、トレンドは永遠には続きません。 いつか転換します。

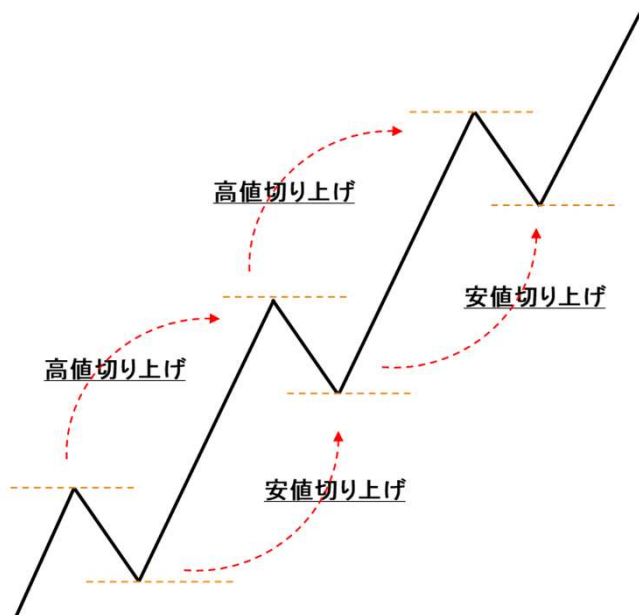
トレンドの判断材料として、ダウ理論を用います。

以後、上昇トレンドからの転換で説明します。
(下降トレンドからの転換は逆と考えて問題ありません)

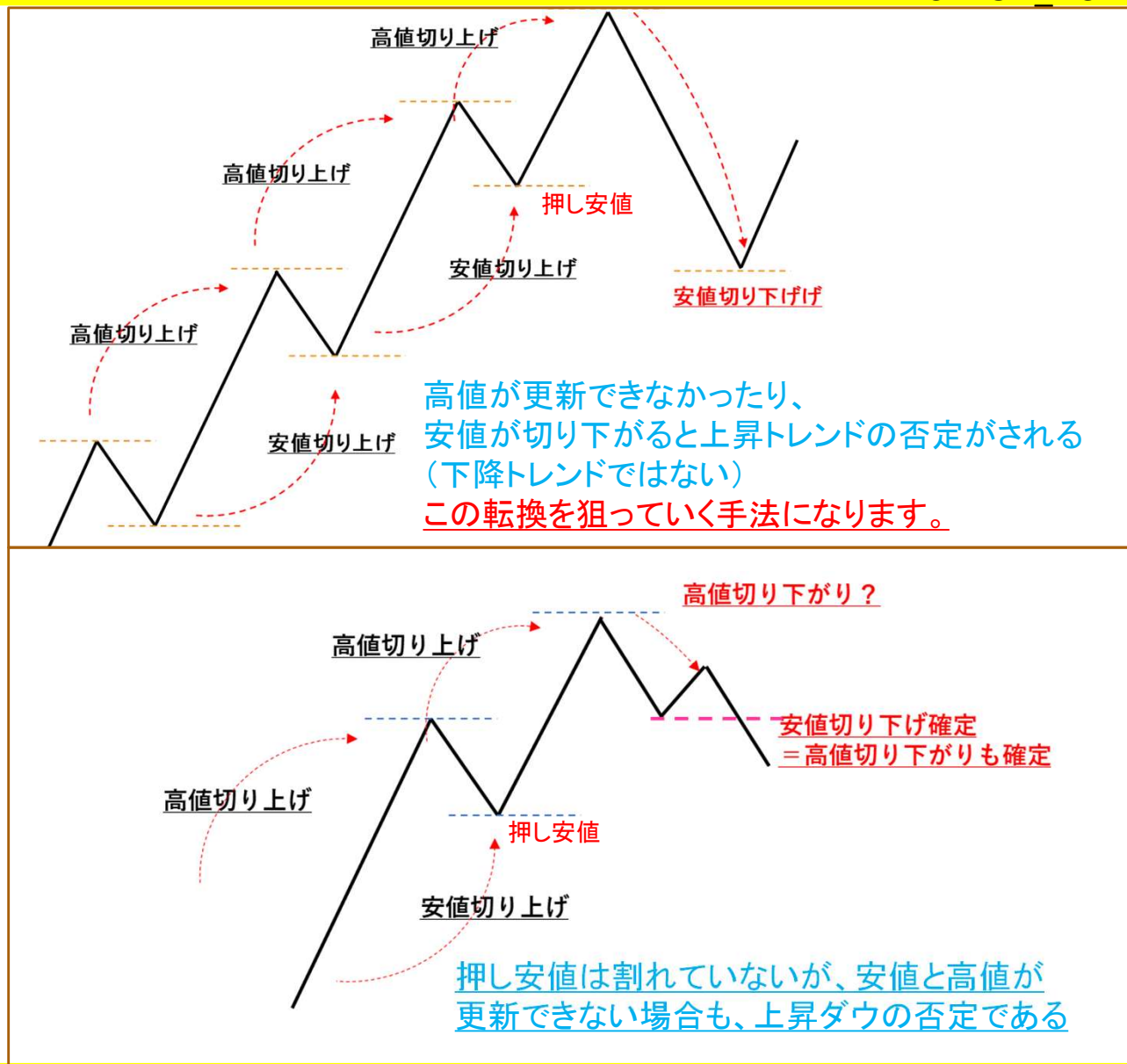


ダウ理論

☆トレンドを定義するもの



上昇トレンドの時は、高安値が更新している
高安値が共に下降方向に更新されていけば
下降トレンド



転換チャート

☆転換のサイン

転換するときは、ある程度決まった形のチャートが出現します。

それは。。。。 三尊(逆三尊)やダブルトップ(ボトム)のチャートが出現します。(ほぼ、このパターンです)

ダブルトップ(ボトム)も、俯瞰してみると三尊に分類することができます。
ただし、すべての三尊でエントリーできるわけではありません。形もさまざまあります。

今回は、**三尊基本の型を6パターン紹介します。**(非推奨形状も含みます)

形によって期待値が変わるため、エントリーポイント・エグジットポイントを可変させていきます。
若干、難しく感じるかもしれませんが、基本概念を理解していただければ問題ありませんので安心してください。

手法概要

☆三尊ハント(sanzon_hunt)

相場の転換は、同じようなチャートパターンが繰り返されます。そのパターンが三尊ですが大衆の心理によって形が異なります。その形を層別し、6パターンに絞り込んだものになります。それゆえ、パターン別に期待値が変わってきます。

☆使用時間足

エントリー足 15M(推奨) : 環境認識足 1H ←**デイトレ推奨**
他の時間足でも、原理は変わりませんので自分に合った時間軸を選定してください。
環境認識足は、エントリー足の1つか2つ上の時間軸になるかと思えます。

☆推奨通貨ペア(すべての通貨でトレードは可能)

【USD/JPY】【GBP/JPY】【EUR/USD】 1通貨当たり、2~3日に1回のエントリーチャンスです。

☆推奨時間帯

東京時間~ロンドン時間~ニューヨーク時間

ボラティリティーの低い時間帯は、テクニカルは効きにくくなります。

手法概要

☆使用インジケータ

- ・単純移動平均線 21 SMA
- ・単純移動平均線 200 SMA

☆使用ツール

- ・フィボナッチリトレースメント(FR)
- ・トレンドライン
- ・水平線
- ・フィボナッチエクспанション
(1つのパターンで利確位置に使います)

今回設定



インジケータ入れすぎ設定

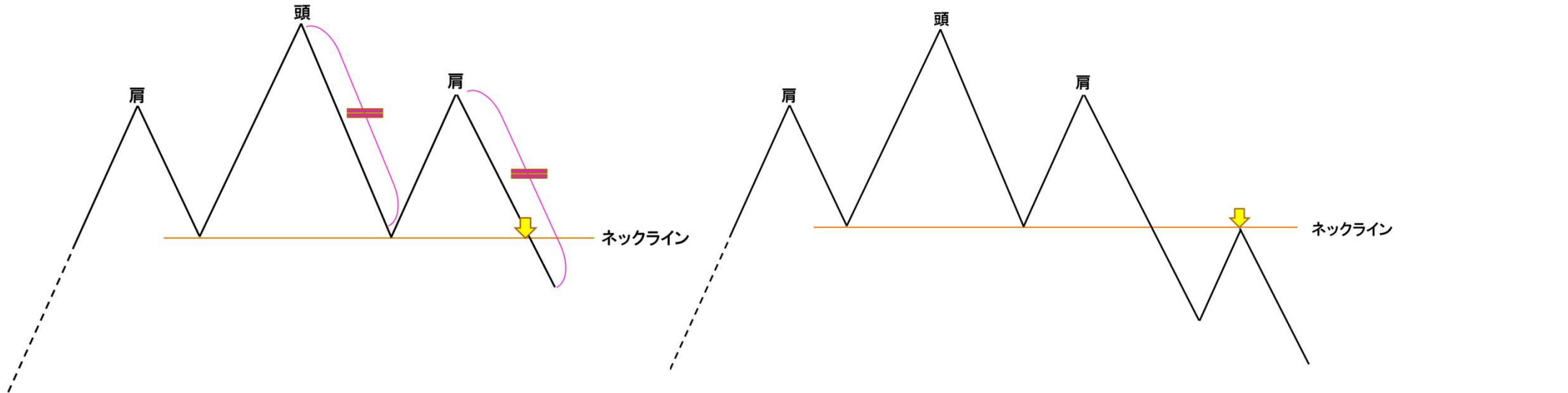


見てもらえれば、分かると思いますが、今回の設定は非常にシンプルなチャートです。
インジケータを入れすぎても見にくくなり、ローソク足の値動きの意味を理解することが難しくなります。

器用な方であれば、たくさん入れて判断に迷わなければOKですが、私は器用ではないのでシンプルにしています。
もちろん、初心者の頃はオシレータ含めたくさん入れていましたが勝てませんでした。(格好つけたかっただけです)

三尊とは

三尊は左肩—頭—右肩のようなチャートになります。別名ヘッドアンドショルダーとも呼ばれ、転換のサインとして有名です。



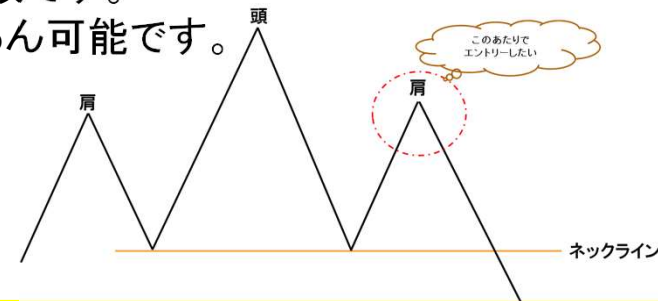
参考書的には、上記左図の三尊のように、ネックラインを割れてからのエントリーや、ネックラインでのロールリバーサルでのエントリーで紹介されていることが多いです。

ただ、エリオット波動的には3波の途中であったり、5波目を狙うことになり、リスクリワードが悪くなります。

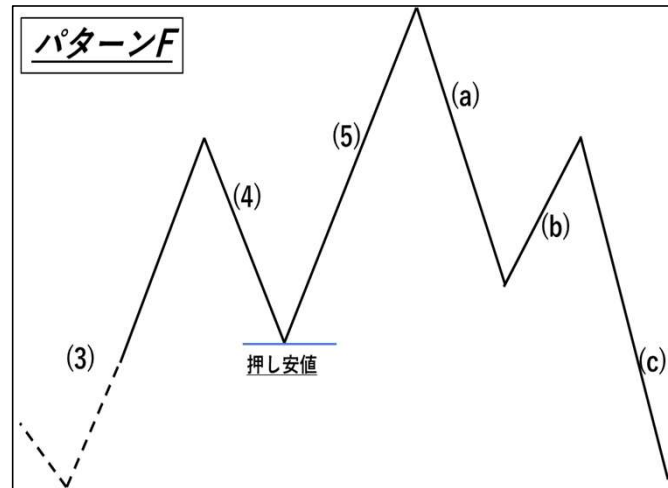
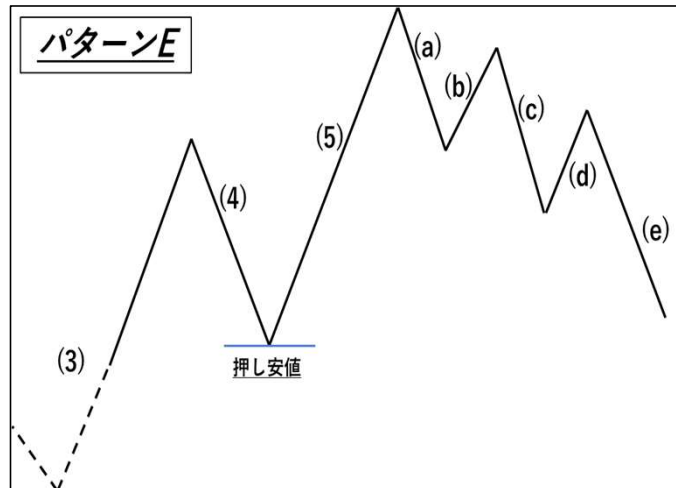
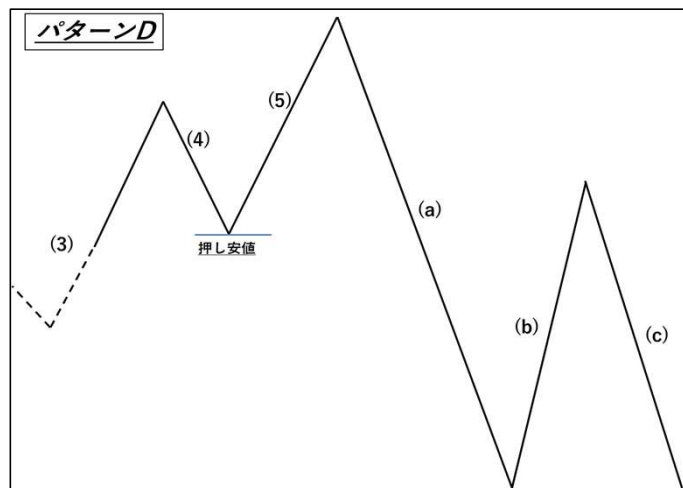
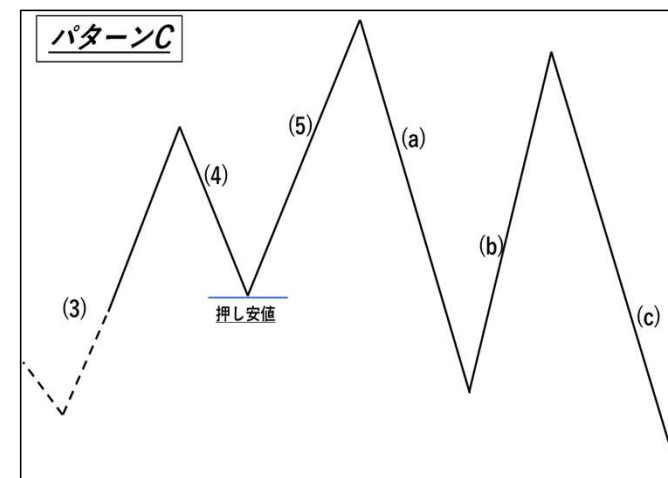
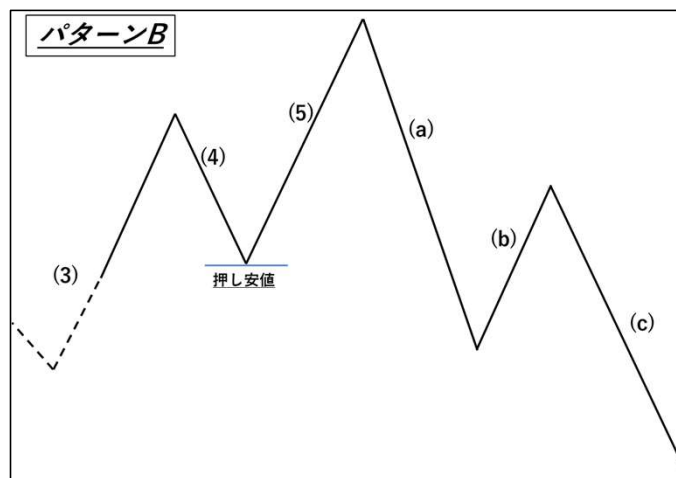
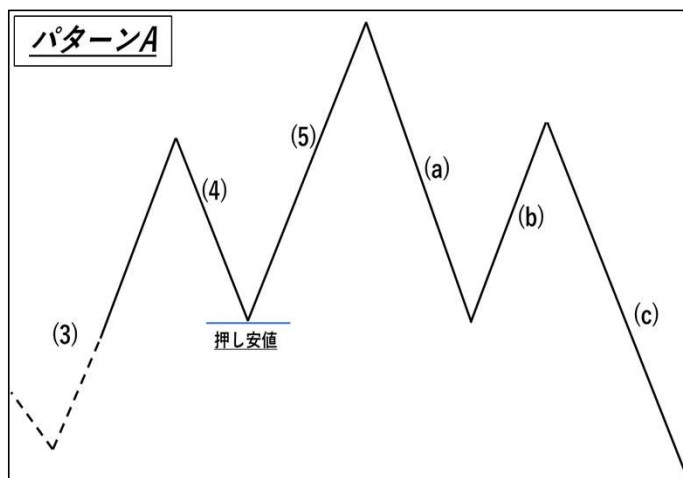
三尊は勝てないといわれるのは、参考書通りに期待幅の小さいところを狙っているが故です。

そのことを理解してトレードすればコントロールは可能ですので、勝ち続ける事ももちろん可能です。

ただ、今回お伝えする手法は三尊の右肩頂点部付近からエントリーを行っていきます。



基本 6形

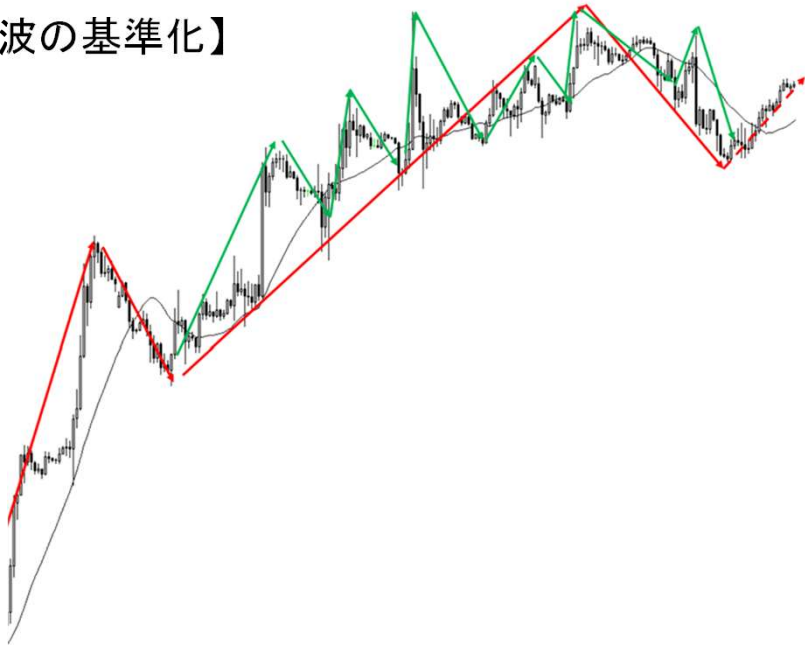


一見すると、同じようなパターンに見えるものもありますが、値動きの意味を考えると別のものに見えてきます。パターンによって、利確位置(エグジット)が変わります。

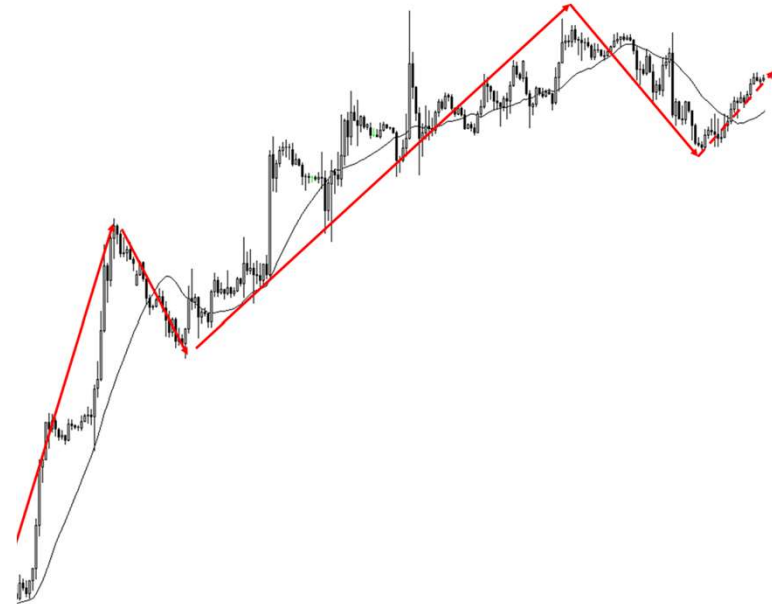
準備①

本題に入る前に、2つ覚えてもらう必要があります。(中級者以上の方であれば、理解に問題ないページです)

【波の基準化】



基準化



赤い波と緑の波どちらで見るべきか？
判断基準がないと、人によって見方が変わりますよね？

⇒緑の波は、1つ下の時間足レベルを見たほうがいい

21MAのうねりが入ったら、1つの山谷(波)と判断する。
そうすると、赤い波のイメージが描けるかと思います。

この基準化を行っておかないと、チャートパターンが頻繁に出現して、優位性が削がれていきます。

準備②

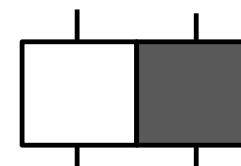
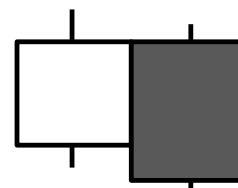
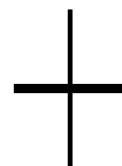
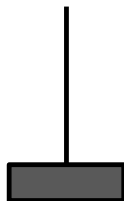
【ローソク足】…トリガーとするもの代表
(プライスアクション)



左:陽線 右:陰線
本コンテンツでは、上記で取り扱います



下降に転じやすい
プライスアクション



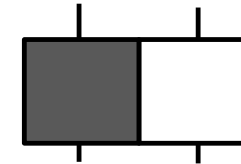
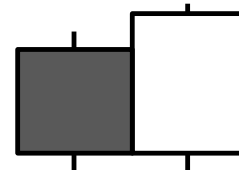
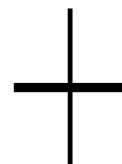
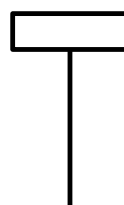
陽のカラカサ
陰のトンカチ

十字線

つつみ足

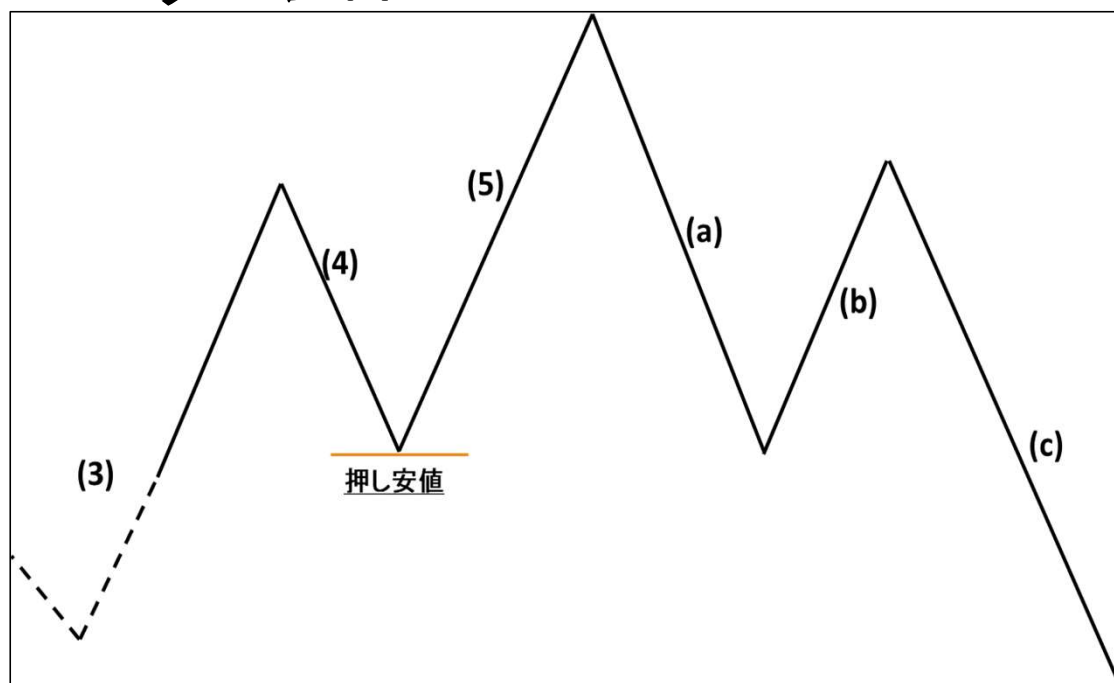
同値

上昇に転じやすい
プライスアクション



パターンA

おすすめ度 ★★☆☆☆



【状況】

(5)波の最高値を作った起点が押し安値
(a)波は、押し安値付近まで下降してきている

【ポイント】

- ・ダウ理論の転換は起きていない(ロング勢は残っている?)
- ・(5)波を全戻ししている。(ショート勢が強い?)

参考書的なきれいな三尊に見えますね。

状況とポイントからどのように考えますか？実は大衆が迷いやすいパターンでもあります。

ロング・ショート勢がどちらがかてるかの拮抗ポイントでもあります。

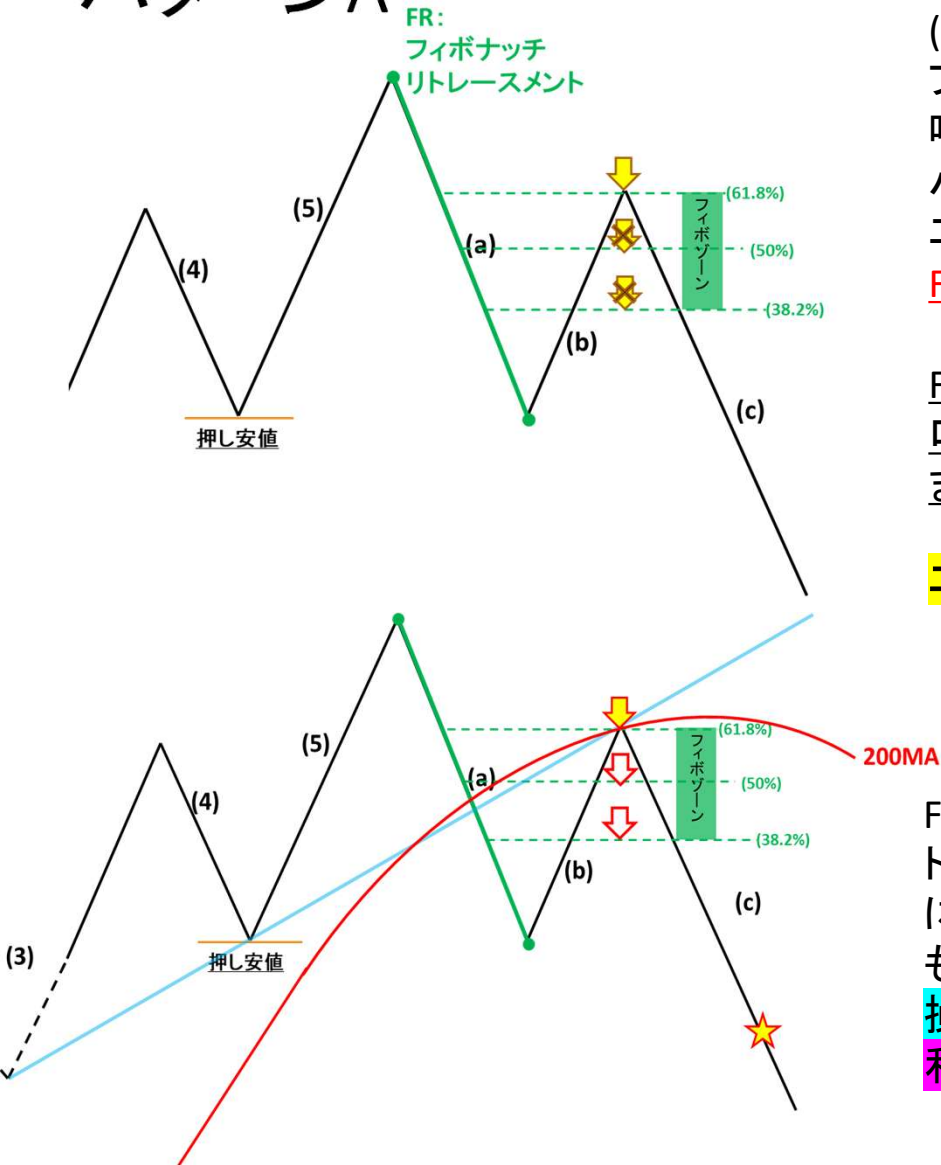
つまり、ショート1択という判断は難しいということです。

では、どのようにエントリーするのか説明していきます。

以降、手法説明のフェーズにおいては、上昇トレンドからの下降トレンド転換を狙った説明をします。

下降トレンド⇒上昇トレンドは逆の考えかたです。

パターンA



(a)波の始点から終点に向かって、フィボナッチリトレースメントを当てます。フィボナッチリトレースメント38.2%~61.8%のゾーンを**Fiboゾーン**と呼ぶこととします。このポイントは反転しやすいポイントとして有名です。パターンAの場合は、拮抗するポイントでもあるので、なるべく引き付けてエントリーをおこないたい。

FR単独エントリーの場合は50%~61.8%の間まで待ちます。

FR61.8%を上抜けする場合は、基本的に見送りパターンです。
ロングエントリーには切り替えることは行いません。
また、38.2%以下での反転も見送ります。

エントリートリガーは、前述したプライスアクションにて行います。

FR38.2%~50%の間でエントリーする場合は、トレンドライン(TL)や200MAがロールリバーサル・サポートするポイントに限ります。

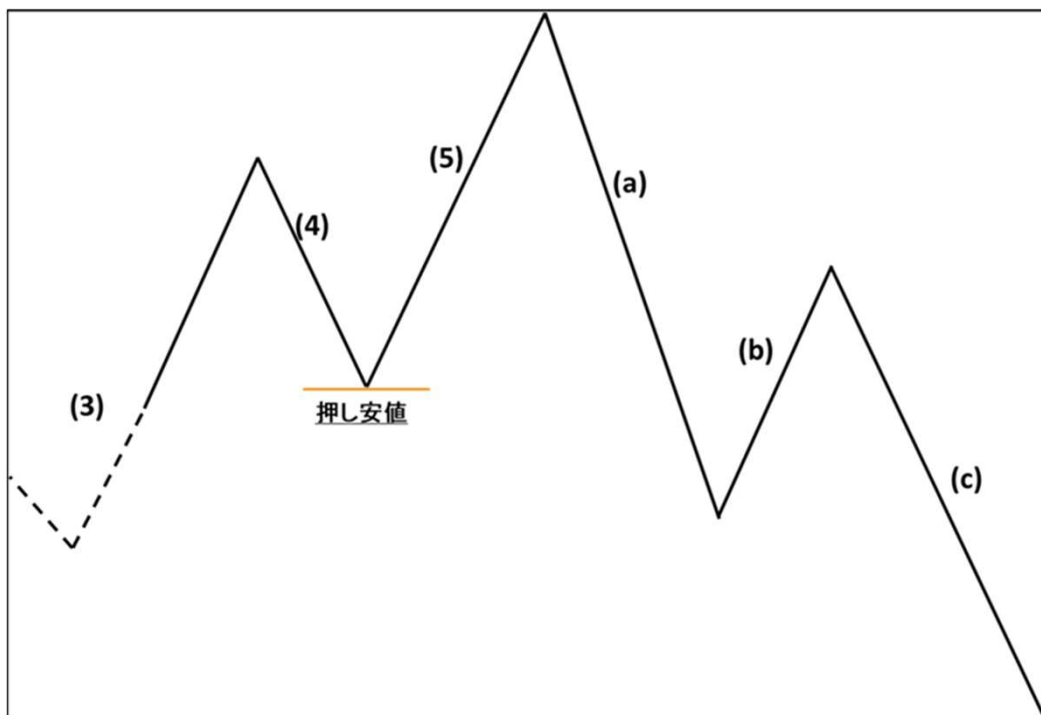
もちろん、50~61.8%でも上記ポイントの複合の方が、確度が上がります。

損切位置: 前回高値 or FR61.8%+スプレッド分

利確位置: 前回安値 or (a)波の幅分の位置(☆印部)
分割エントリー・分割利確が好ましい

パターンB

おすすめ度 ★★★★★



【状況】

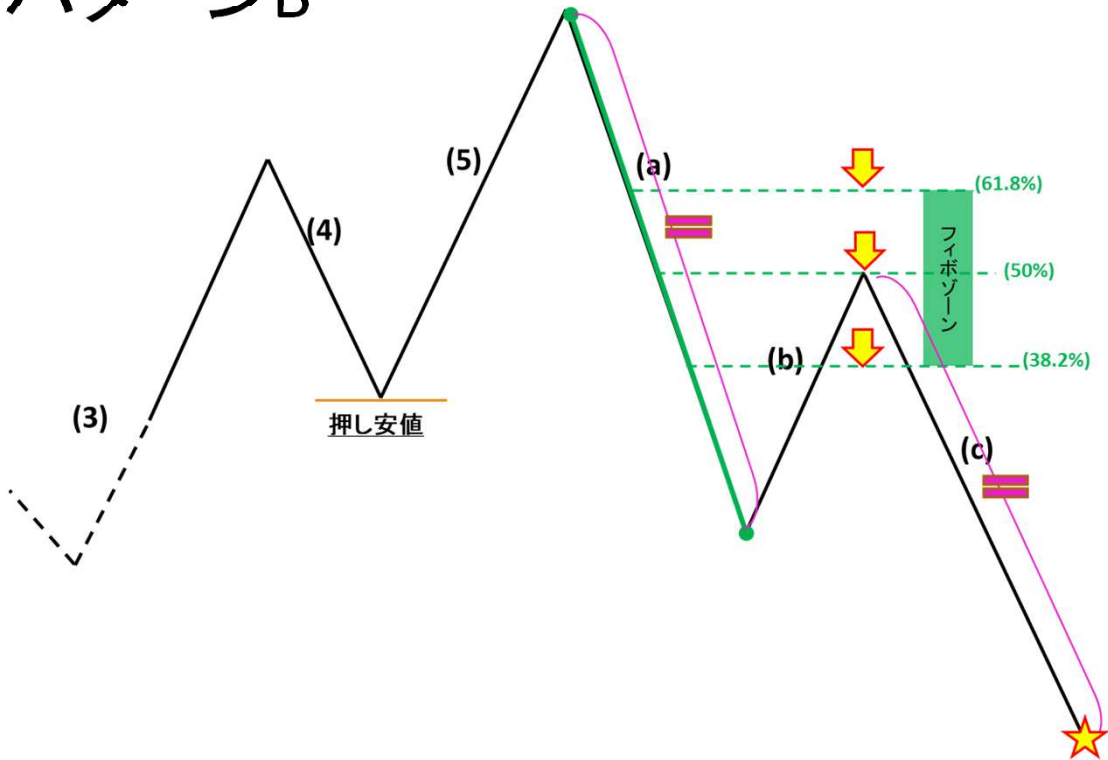
(5)波の最高値を作った起点が押し安値に対し
(a)波は、押し安値を完全に割り込んでいる

【ポイント】

- ・ダウ理論の転換が起きようとしている(ショート優勢)
- ・ロング勢が入ってきにくい

状況とポイントから、押し安値を完全に割り込んでいることで、ダウ理論的には上昇トレンドを否定した形になっている。つまり、ショート勢優勢で新規ショート勢も入りやすい形となっている。逆に、ロング勢が入ってくる可能性が低い状況である。つまり、**参考書的なパターンAよりもパターンBの方が期待値が高いということです。**

パターンB



(a)波の始点から終点に向かって、
 フィボナッチリトレースメントを当てます。
 パターンBの場合は、ショート有利場面ですので
 Fiboゾーンであれば
 FRでの単独エントリーは可能です。

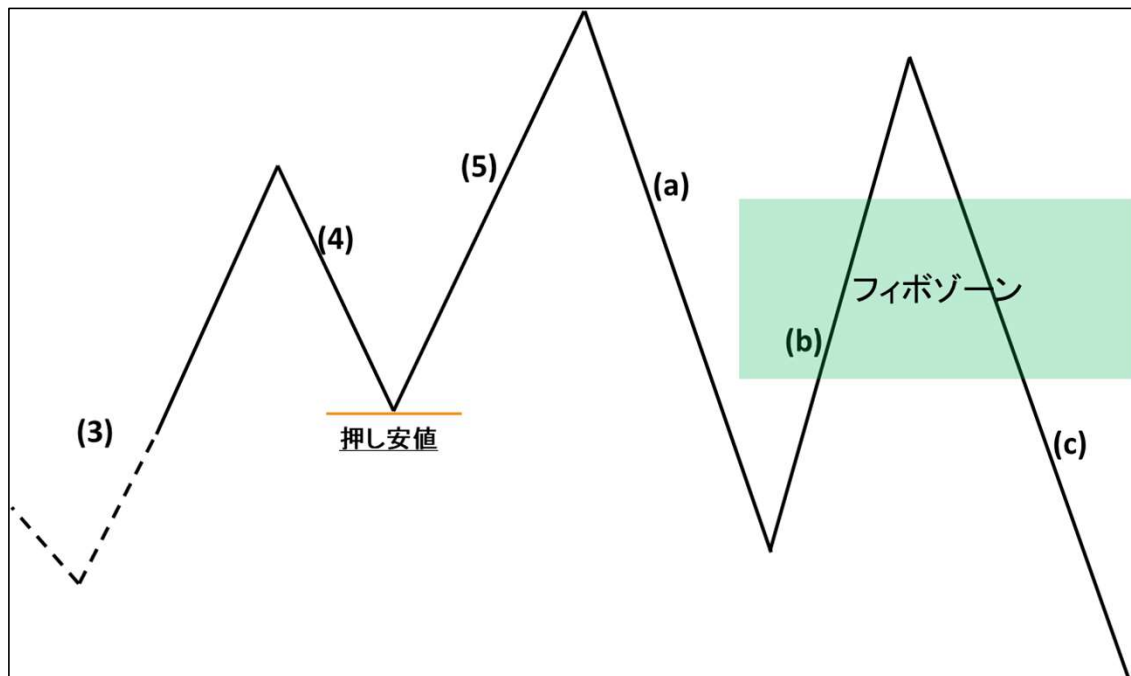
FR単独エントリーも可能ですが、先ほど同様TL/200MA/水平線がサポートに入ってくると確度が上がります。

損切位置: 前回高値 or FR61.8%+スプレッド分

利確位置: (a)波の幅分の位置(☆印部)

パターンC

おすすめ度 ★☆☆☆☆



【状況】

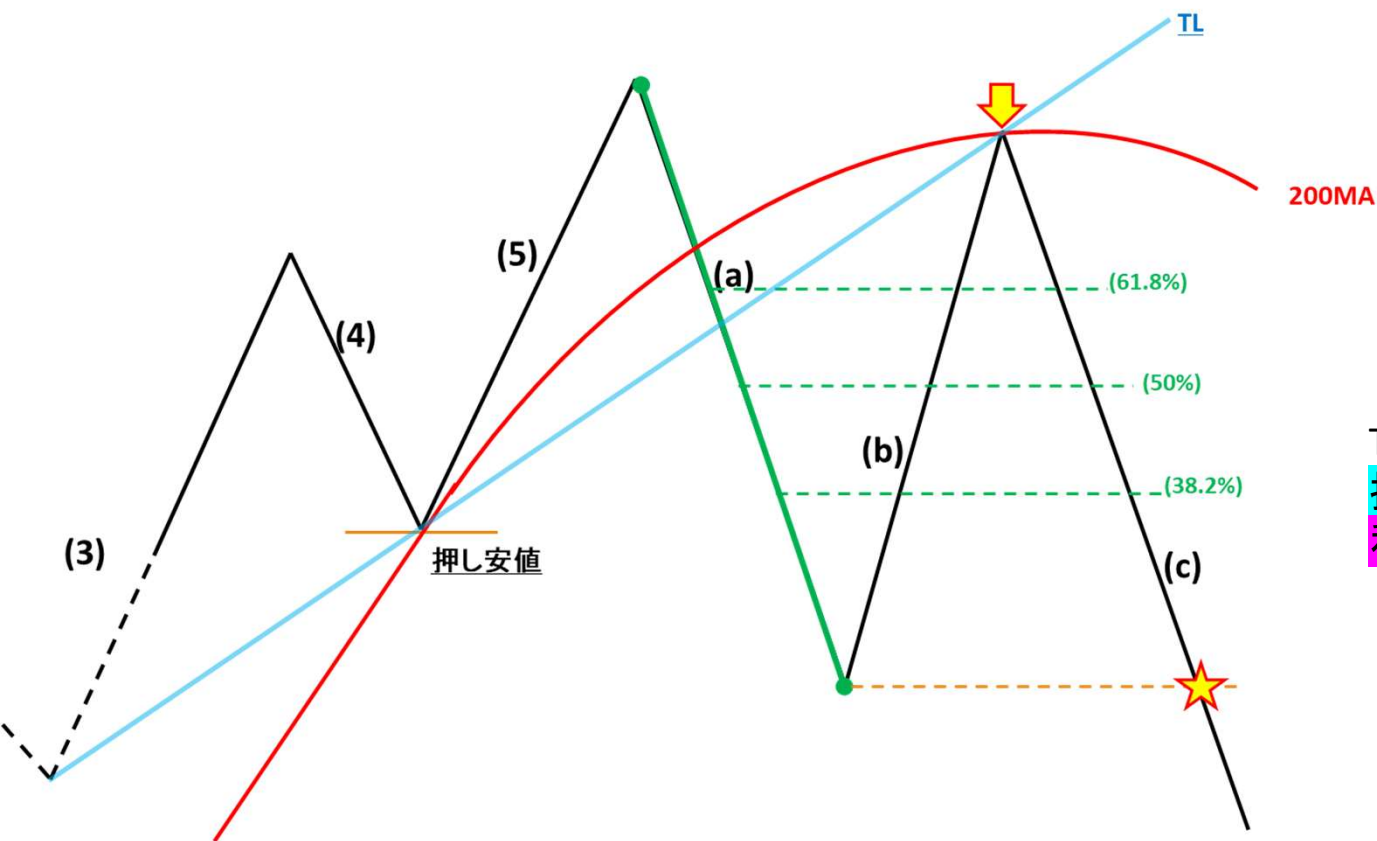
- (a)波は、押し安値を完全に割り込んでいる
- (b)波が、フィボゾーンを超えている

【ポイント】

- ・パターンBのショートが優勢な場面
- ・ロングの勢いが意外に強い

状況とポイントから、押し安値を完全に割り込んでいることで、ダウ理論的には上昇トレンドを否定した形になっていますが (a)のフィボゾーンを上抜けしていることから、ロング勢の勢いが意外につよく 大衆の心理に迷いがでてしまう。(どっちに動く?) = パターンBの見送りパターンになる。

パターンC

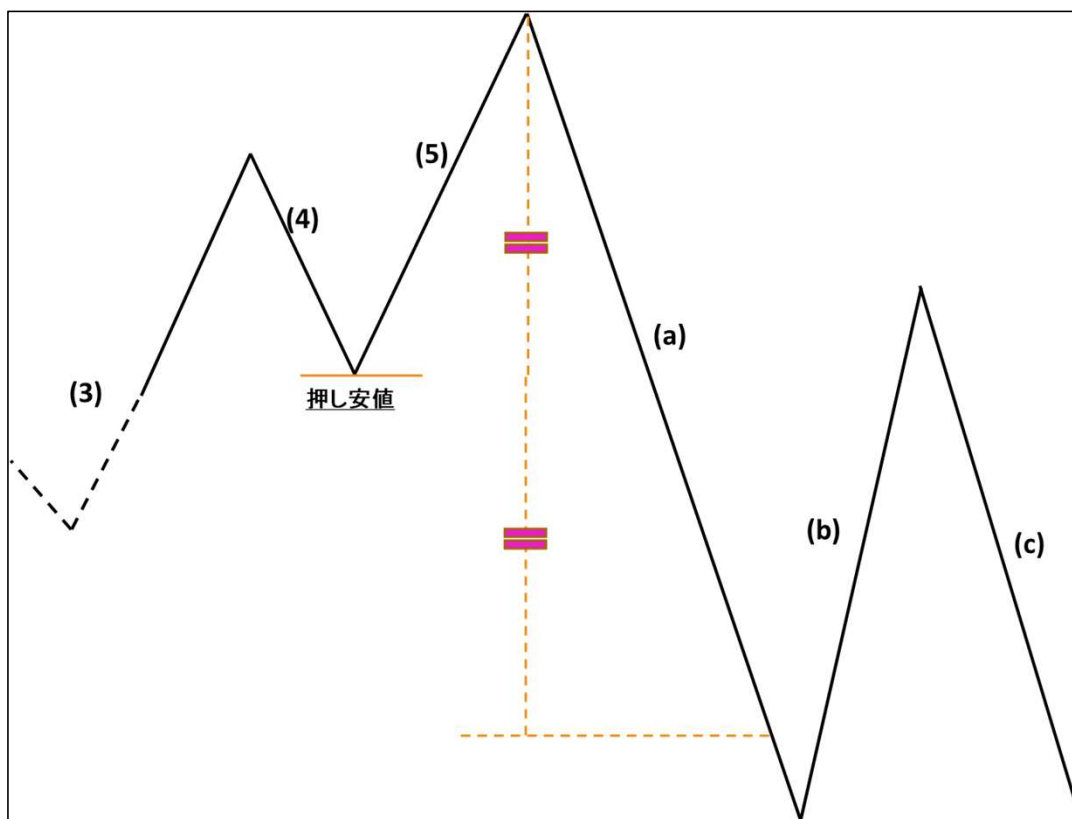


TL+200MAの重複ポイントのみエントリー可能
 損切位置: 前回高値
 利確位置: 前回安値位置 or (b)波の80%分

期待値はそれほど高くありません。前回安値位置まで若干届かない場合もありますので、値動きをみてエグジットを考えていただきたいパターンになります。

＝初心者の内は、極力エントリーを控えたい(強引にエントリーしないようにしたい)

パターンD



【状況】

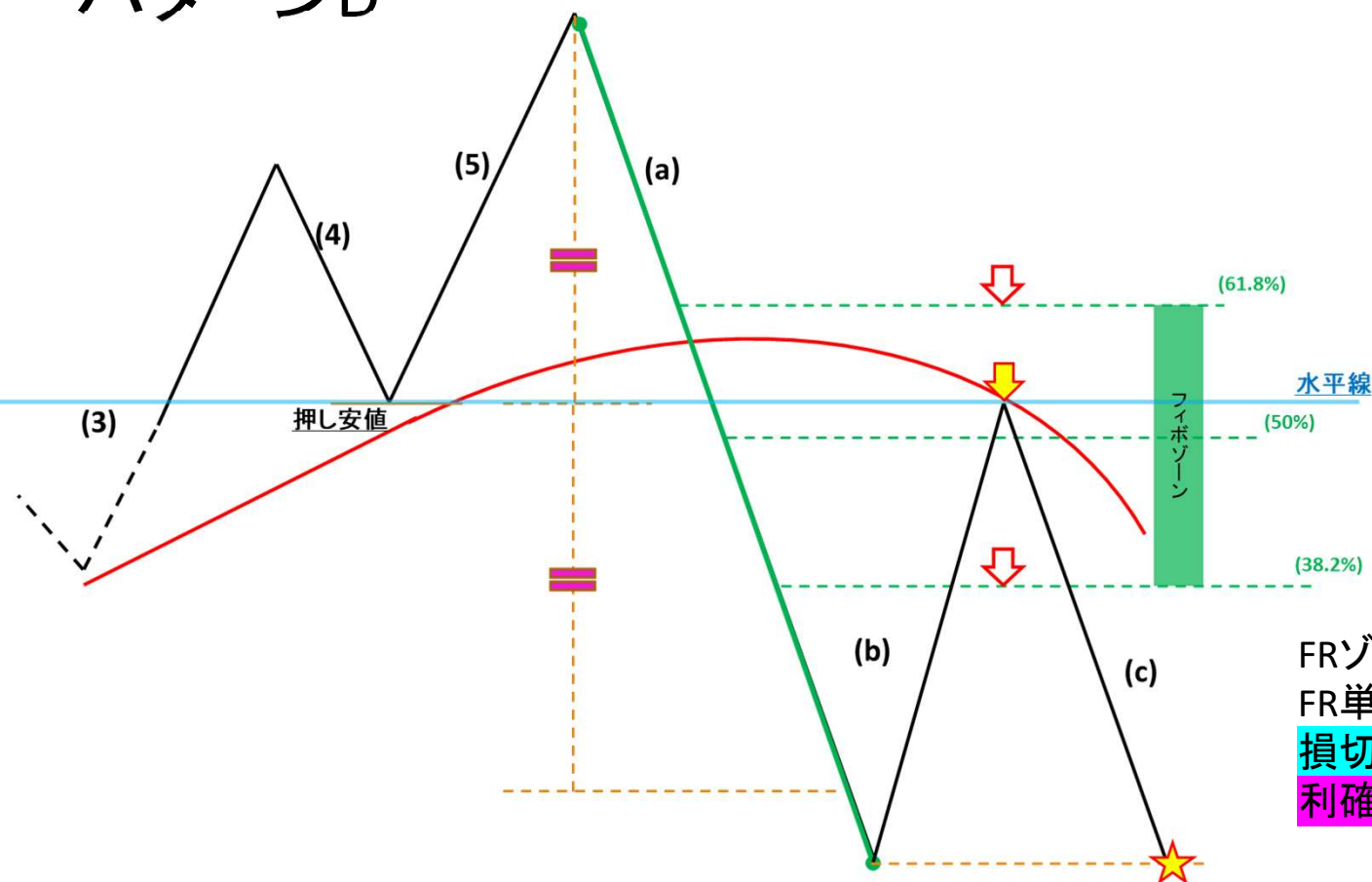
(a)波は、押し安値を完全に割り込んでいるというより割り込みすぎている。

【ポイント】

(a)波が、(5)波の2倍以上の値幅分下落している
新たな、ショート勢が入りにくい

状況とポイントから、(a)波が完全に押し安値を割れている状況ですが、あまりに下落が強い状況でもあります。
完全にショート勢が強いはずなのですが、どちらかという一旦ショート勢が一気に入りすぎてしまった状況でもあります。
なので、パターンBのように大きな値幅は狙えない可能性があります。

パターンD



FRゾーン + 200MA or TLの複合要素

FR単独では、極力入らない

損切位置: 前回高値 or FR61.8%+スプレッド分

利確位置: 前回安値位置 or (b)波の80%分

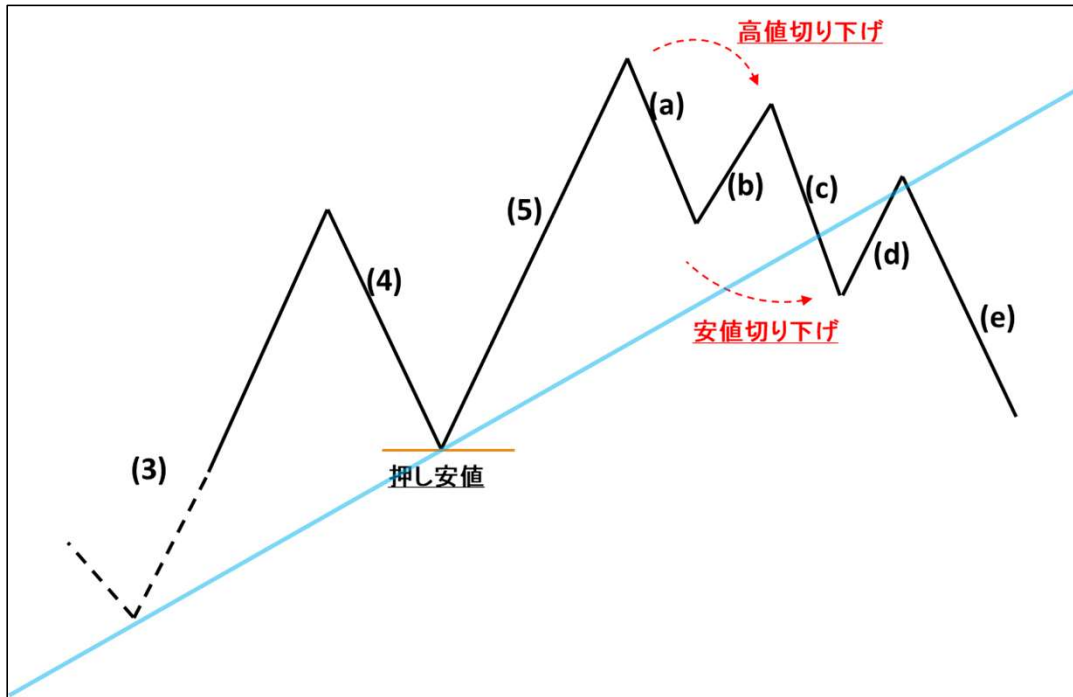
前回安値位置まで若干届かない場合もありますので、値動きをみてエグジットを考えていただきたいパターンになります。

=初心者の内は、極力エントリーを控えたい(強引にエントリーしないようにしたい)

パターンE

SNZON_HUNT

おすすめ度 ★★☆☆☆



【状況】

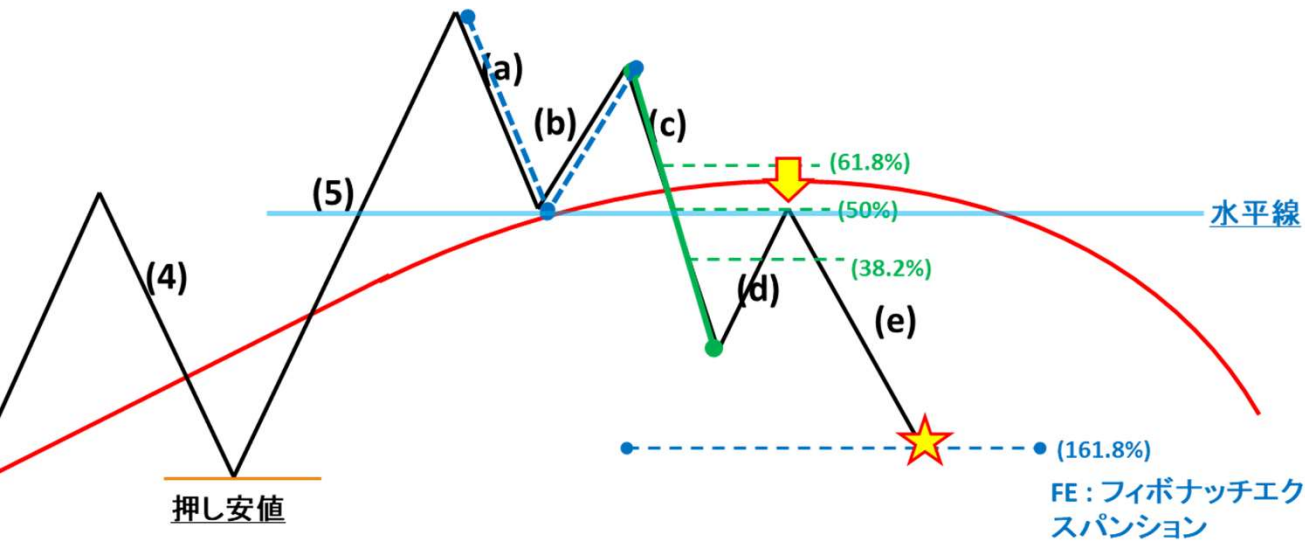
(a)(b)(c)とダブルトップのような形状をつけて下降してきている。押し安値は割り込んでいないが、高値が切り下がっているため、上昇トレンドを否定しやすい状況

【ポイント】

TLを割れる前に、ダブルトップ形状で下降してきている。

こちらは、ダブルトップ形状で落ちてきているパターン。俯瞰してみると三尊にも分類できるので変則三尊として扱います。結構出てくるパターンでもあります、大きな値幅は狙えませんが、また、TLを割る前にダブルトップ形状が出ていることがポイントです。

パターンE



FRゾーン + 200MA or 水平線の複合要素
 FR単独では、極力入らない
 損切位置: 前回高値
 利確位置: FE161.8%

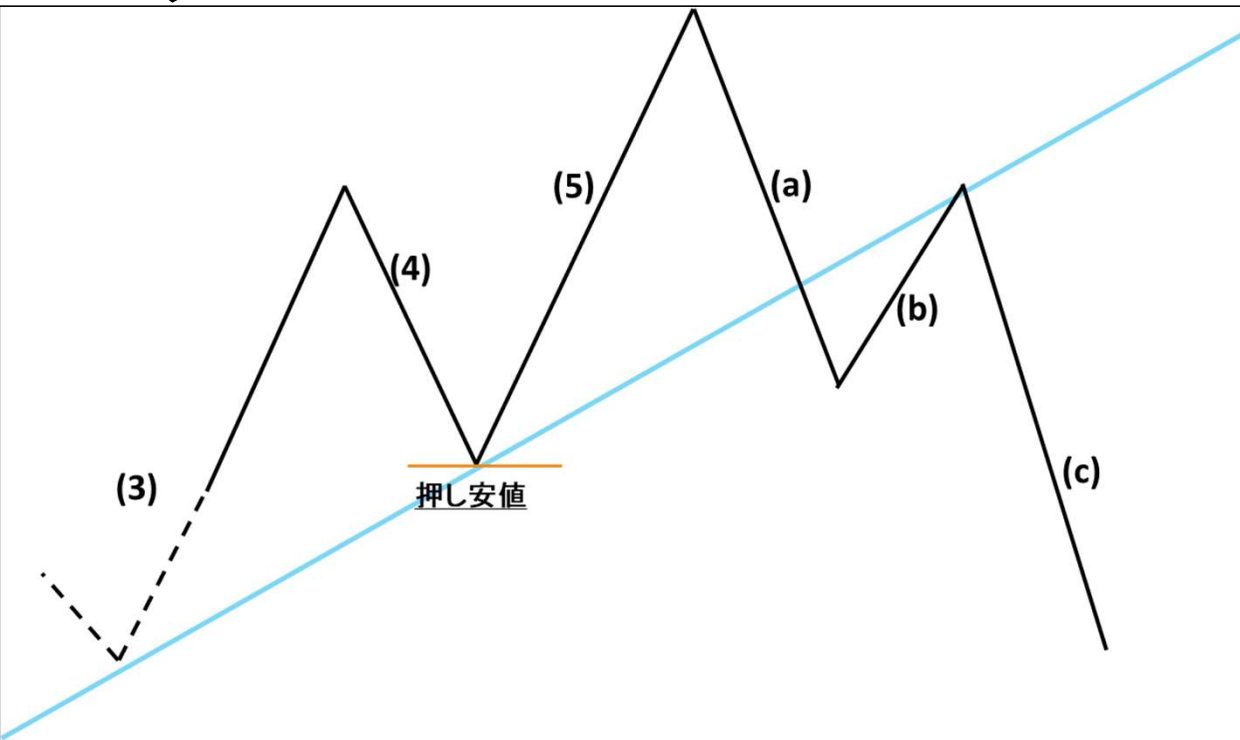
パターンEの場合は、(a)波ではなく (c) 波にFRを当てます。
 エントリーポイントは、同様にフィボゾーンと200MAor水平線の複合要素でエントリーします。
 利確位置は特徴的で、(a)(b)(c)の順にフィボナッチエクspansion (FE) を当てます。
 その際の161.8%の位置が利確位置です。
 理由としては、この加工の波のリズムは(a)(b)の波で出来ているからです。

このパターンは頻度は高いですが、リスクリワードが悪くなりやすいパターンでもあります。
損切位置と利確位置は決まっているので、エントリーポイントから逆算してリスクリワードが1:1
 以下であれば、エントリーを見送ってください。

パターンF

SNZON_HUNT

おすすめ度 ★★☆☆☆



【状況】

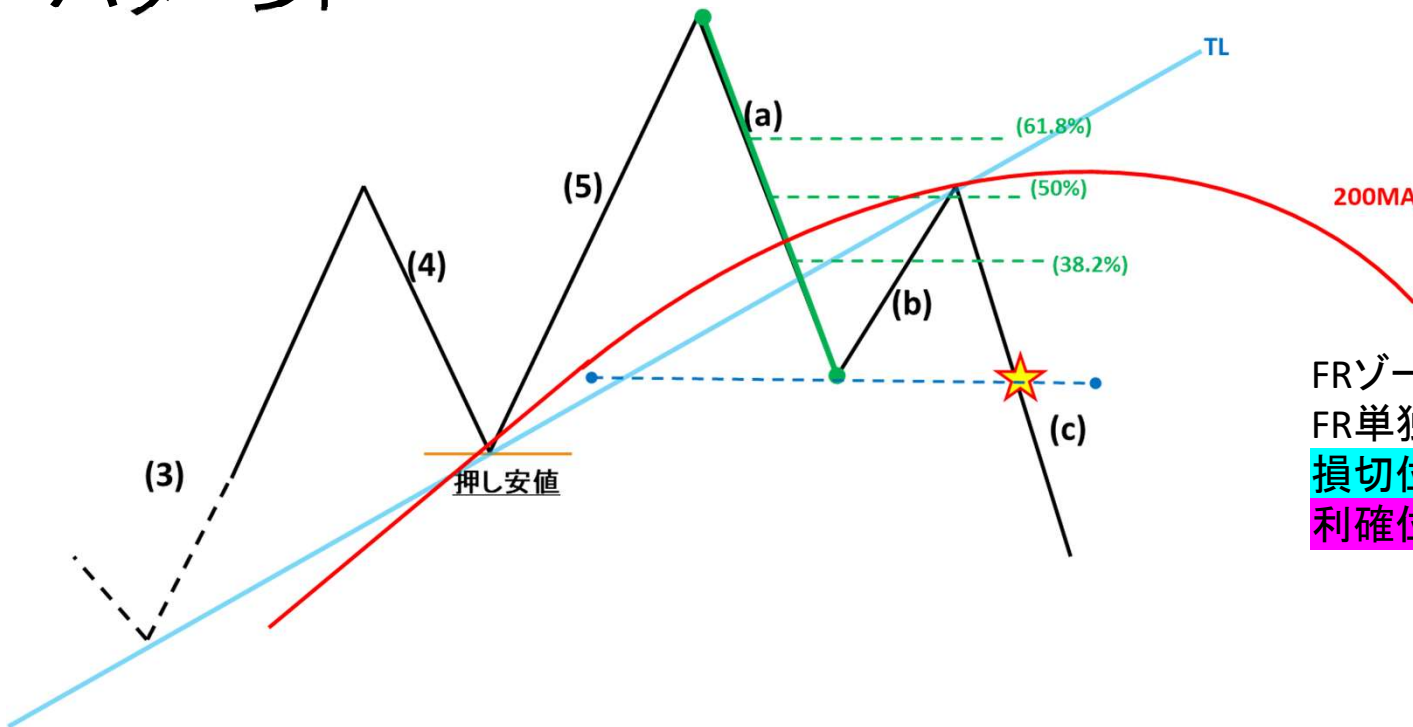
ダブルトップのように下降してきているようにも押し安値付近まで下降してきている
押し安値を割れていない(上昇トレンド中)

【ポイント】

パターンAやパターンEに近い形である。
TLを割れた形で、ダブルトップ形状にて下降しているが押し安値までは届いていない状況

ポイントにも書いてあるように、パターンAの三尊になり切れていない状態。
押し安値も割っているわけではないので、上昇トレンドが否定はされていない。
ただし、TLを割れていることで上昇の勢いが削がれている状況であり、大衆は三尊とみることもある。

パターンF



FRゾーン + 200MA or TLの複合要素
 FR単独では、極力入らない
損切位置 : 前回高値or FR61.8%+スプレッド分
利確位置 : 前回安値位置or((a)波分の値幅)

パターンFの利確位置は、無難に前回安値までが期待値が高いです。

ただ、リスクリワードは悪くなる可能性があります。

また、パターンAに類似でもあるので(a)の勢いを見て、利確位置をパターンAと同等の位置においてみてもいいです。

パターンAでもいいましたが、分割エントリー・分割利確がいいかもしれません。

実チャートでの説明



パターンA ①



紫の縦ラインの箇所をケーススタディーします。

1H足では、直近高値を作った起点、押し安値を赤の波で割り込んでいます。

なので、この押し安値が割れたことで下目線に変わります。

この状況下の、15M足を見ていきましょう。

ダウ理論の説明は、補足資料で行いますが基本的には1H(環境認識足)では、ダウ理論に従った方向性を見てください。

また、強い抵抗帯などもあれば水平線をひいておいてください。

もう少し、上級者的な使い方は三尊パターンを1Hにも当てはめて、今がどこにいるのか把握すると、尚いいです。

パターンA ①

15M



エントリー: ピンクの矢印位置(根拠包み足) 左はOK 右は陰線が長すぎて入りにくい(RR: リスクリワードが悪くなるため)
 損切位置はFR61.8+スプレッド分
 利確位置は①と② エントリーの根拠が強いため②まで待ってもいい。①だとRRが悪い。 分割利確でもいいところ。

パターンA ②

1H



15M



パターンA ②

15M



ピンクの波は押し安値まで、下降して再度調整で戻っていますね。

これは、完全にパターンAですね。

200MAは下の方で推移しているので、絡んできません。
水平線・TLも引けなさそうですね・・・

となると、パターンAでFR単独でエントリーすると
FR50~61.8%の間でしたね。

戻しがFR50%超えてきそうなので、エントリーできそうです。
と思って、エントリーしたとします。

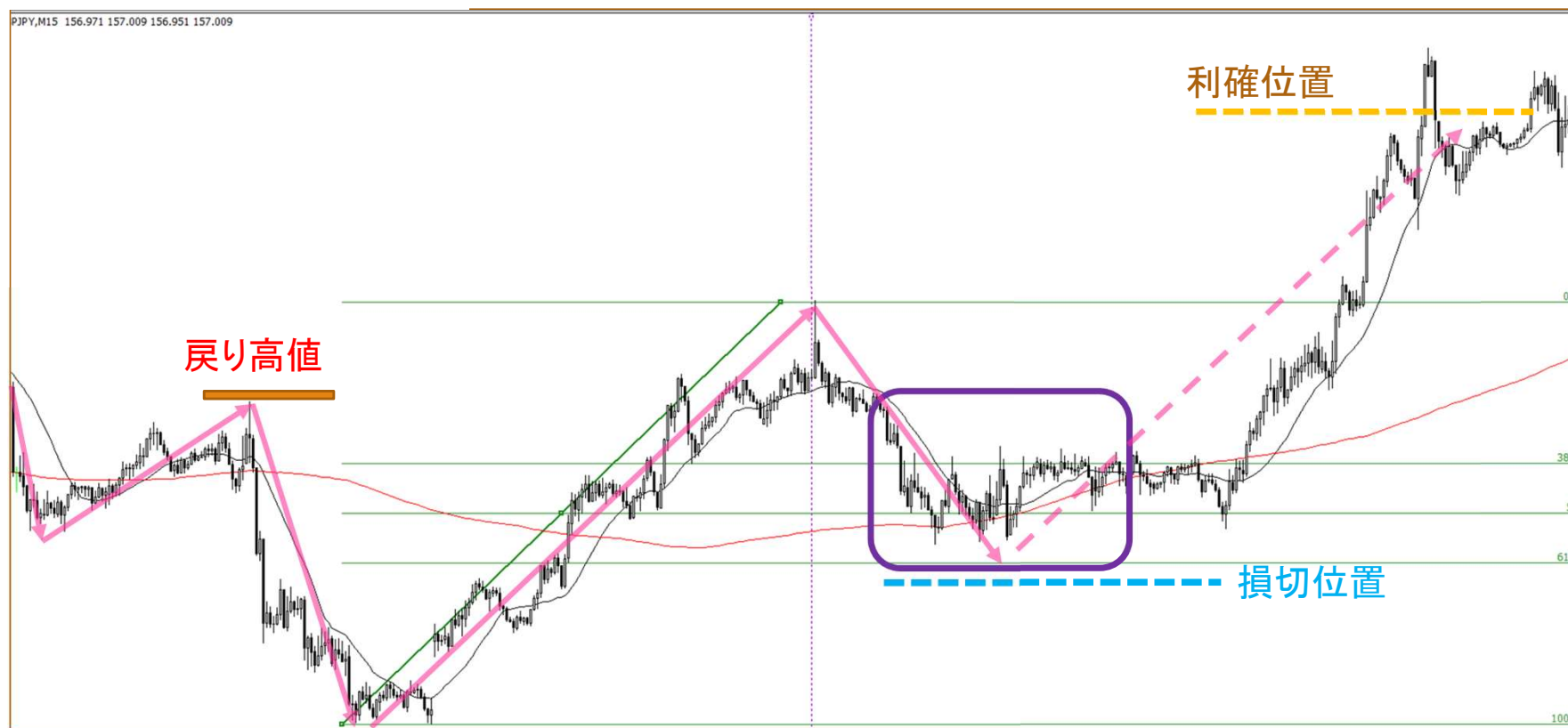
その後は見てわかるように、上昇していきましたね。。。。

15Mの三尊は下降への転換シグナルとなりますが
1Hはどのような状況でした？ 上昇トレンドでしたよね？

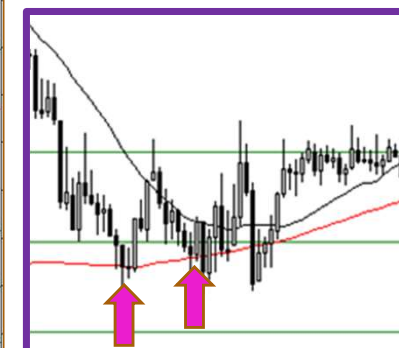
つまり、上位足の流れに逆らったトレードはNGということです。
基本的には上位トレンドに順張りという考えです。

以降、1H足の見方は変わらないので割愛します。 15Mのパターン別を紹介していきます。

パターンB

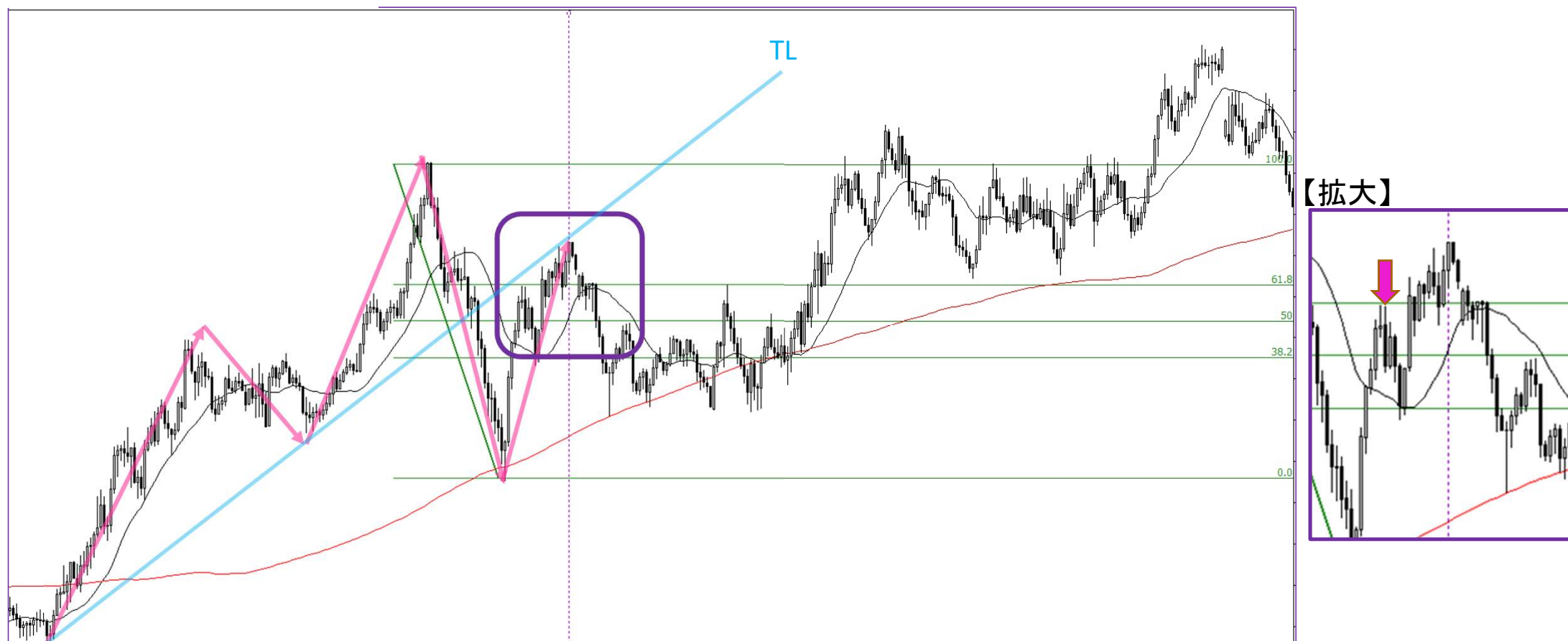


【拡大】



パターンBの逆三尊バージョンです。考え方は一緒です。
パターンBの場合は、フィボゾーン単独でもエントリーが可能でしたよね。
200MAのサポートがフィボゾーン内に入ってきているので、複合でエントリーできると強いポイントです。
エントリー箇所(ピンク矢印)の左(十字線)、右(包み足)でエントリーしまう。損切・利確位置は定石の位置です。

パターンC



押し安値を割った段階では、パターンBです。

ただ、フィボゾーンを上抜けしてきてしまいました。パターンCに切り替えたところですが、200MAとTLのサポートが両方が重なるポイントのみエントリーが可能です。今回は200MAが絡んできていない状況です。

また、正直途中までパターンBだとバイアスがかかっているため、ピンクの矢印部で包み足が出ています。

エントリーしてもおかしくありません。ただし、損切位置は限定的です。(この負けを認める考え方も大切です)

パターンD



パターンDは、このように戻り高値を大きく超えていきます。戻しがFR38.2%ほどで反発しています。今回はフィボゾーン以外の要素がないのでエントリーできないパターンです。とはいえ、押し目を作っても強く伸びれません。では、右図のようにFR50%まで待って、200MAとの複合部でエントリーできるかという、そういう訳にはいきません。逆にパターンBの三尊が成立してしまっています。後ほど説明しますが調整波の形次第では右図のようにフィボゾーンに再度入ってきた時でもエントリーは可能です。

パターンE



TLを割る前に、ダブルボトム形状で下降ダウ否定した波(赤矢印)が確定しました。

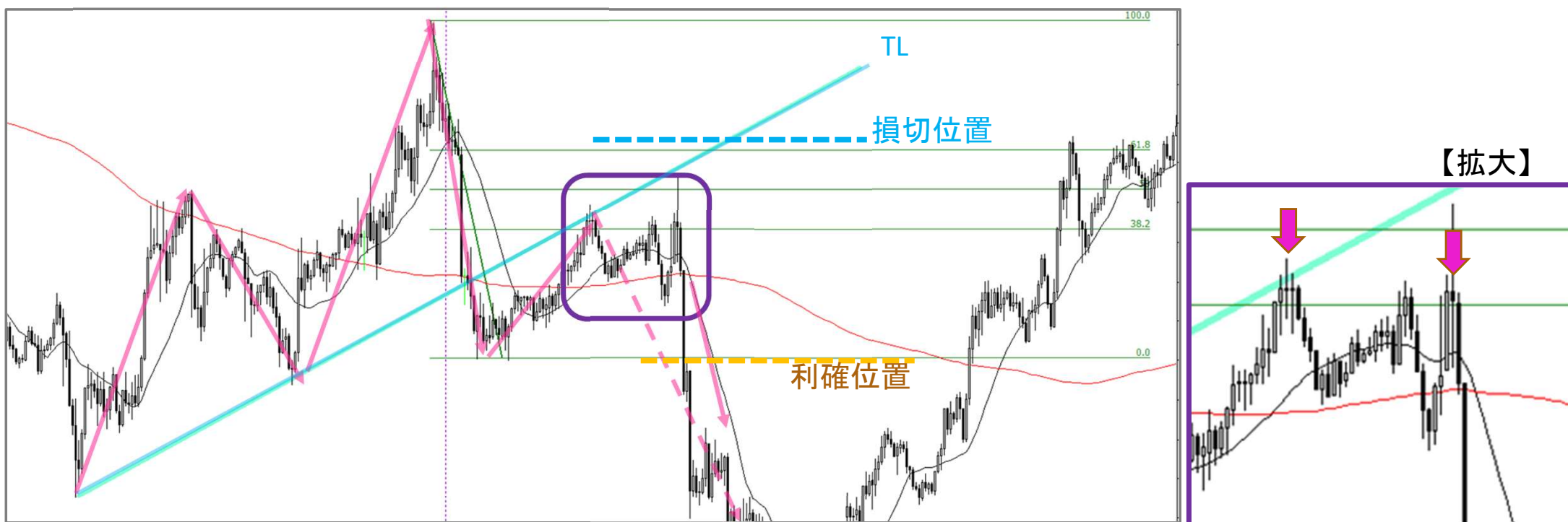
TL前での出来事のため、パターンEに分類されます。赤矢印の波にFRを当てます。

今回はフィボゾーンとTLが絡んでしますので、そのポイントでエントリーが可能です。(包み足)

利確位置は、FE161.8%の箇所に設定。青の三角形ができていところに当てています。(FEについても補足資料にて)

損切位置は、FR61.8%+スプレッド分(結構タイトです) その理由としては、損切を前回安値に持っていくとリスクリワードが悪くなるためです。最悪負けても数pipsです。

パターンF

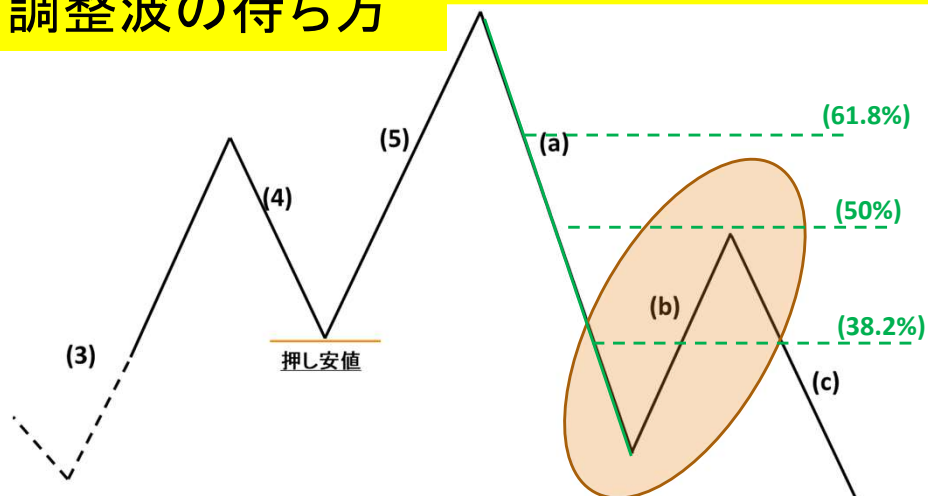


パターンEとは違い、TLを割り込んできました。パターンA程押し安値には迫っていませんが調整が出ました。ダウ理論的には否定はされていませんが、TLを割り込んだことで勢いが衰える可能性は高い場面です。なので、TLを割り込んだ波にFRを当ててフィボゾーンまで待ちます。今回はTLも複合で絡んでいる場面でしたのでエントリーが可能です。ピンクの矢印の2か所どちらかでエントリーが可能です。両方十字線トリガーです。

損切位置はFR61.8%+スプレッド分、**利確位置**は直近安値までです。

実チャートでの説明は以上になります。次にポイントと苦手場面を紹介します。

調整波の待ち方

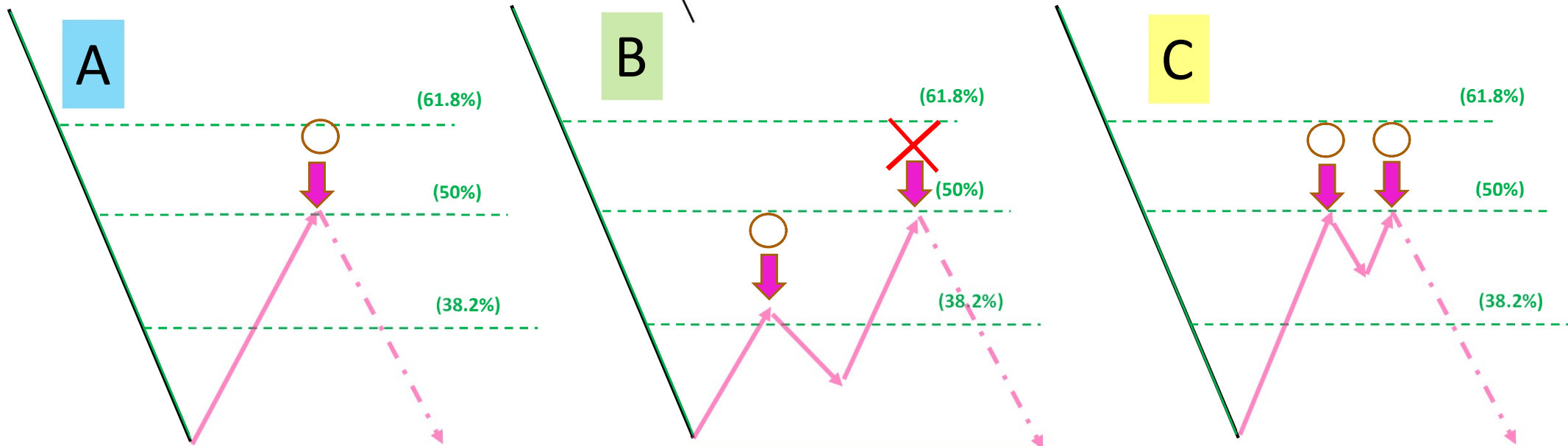


(b)波が調整波です。この波がどのようにフィボゾーンに入ってくるかも大切です。

A: 一直線にきているので、問題ありません。

B: 1つ目の矢印はOKです。2つ目はダブルボトムによってダウ否定が入っています。パターンEが出てしまっていますのでエントリーはできません。

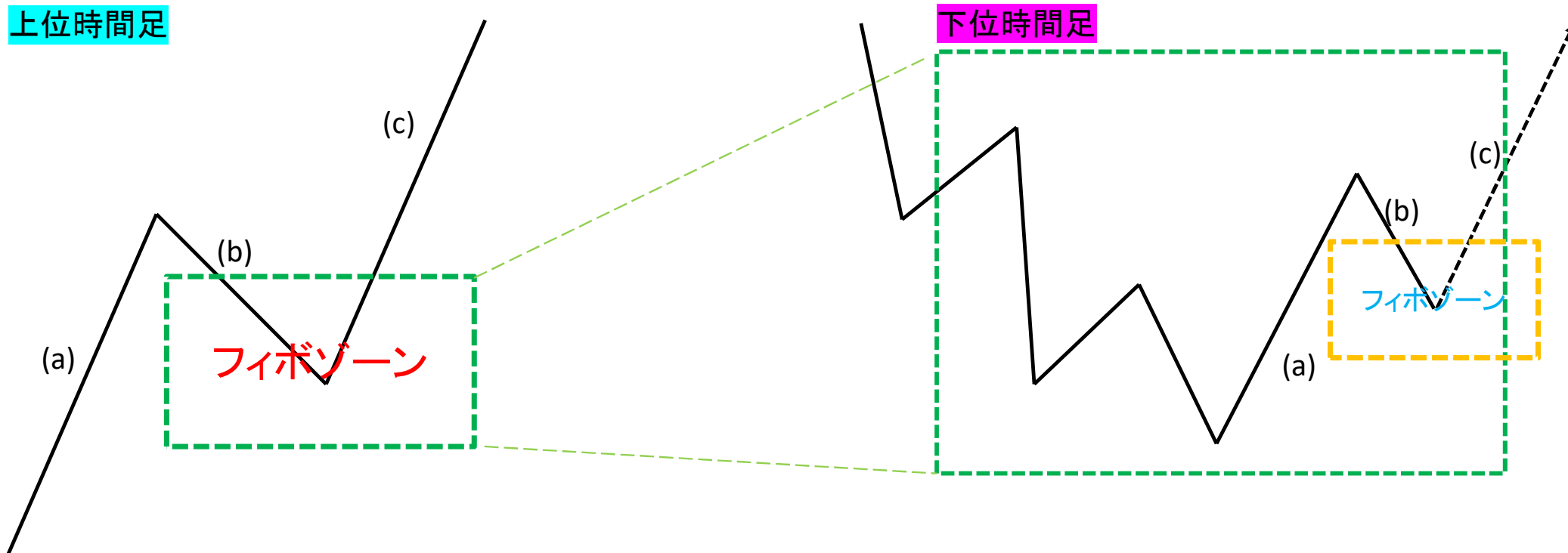
C: フィボゾーン内で停滞している動きです。こちらは両方OKです。



上位の波の3波目と下位足での3波目が重なるポイント(3波-3波)です。コンテンツ内では(c)波で表記しています。今回の三尊手法は基本的に3波狙いです。上位足1H足での2波の終わりを15Mの三尊転換で狙うと期待値がとても高いです。

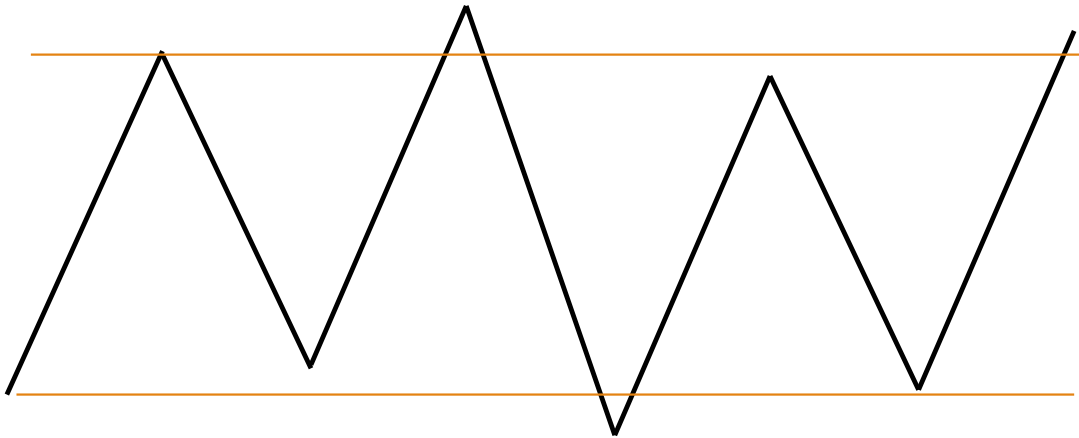
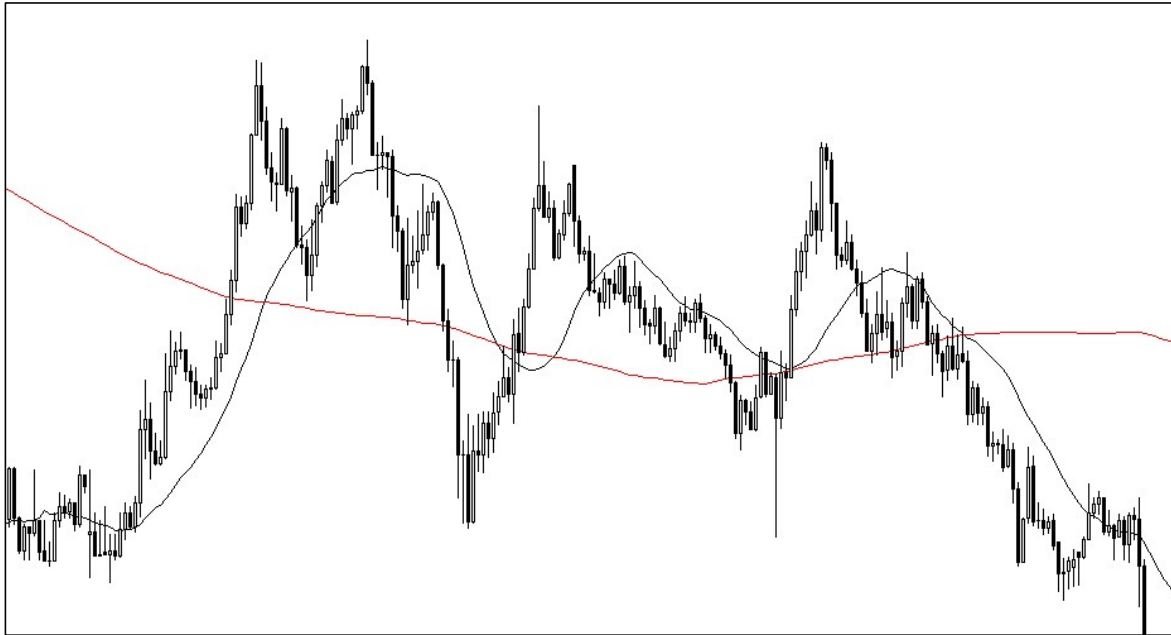
上位時間足

下位時間足



上記のように、長期時間足の内部は小さな時間足の波ができています。(フラクタル構造)
上位足の2波の終わり部を下位足も同様なポイントでエントリーすると、上位と下位の根拠が重なり強力です。
最初は上位足をダウ理論で方向性だけ見るようにお伝えしていますが、相場に慣れてきたらフラクタル構造を理解して優位性を上げたトレードをしましょう。

不得意相場(レンジ相場)



苦手相場は、レンジ相場です。(トレンドレス)トレンドフォローの手法ですので、どうしても苦手になってしまいます。

レンジ相場だと、狭い幅で波をつくるため三尊ができているように見えてしまいます。

この相場を避ける必要があります。

①避けるポイントとしては、200MAに角度がなく横ばいの動きをしている

②高安値を継続して更新できていない。
エリオット波動でいうと、1~5波までが確認できない

上記のようなポイントは、エントリーを見送ることが大切です。

使用ツール 基礎用語

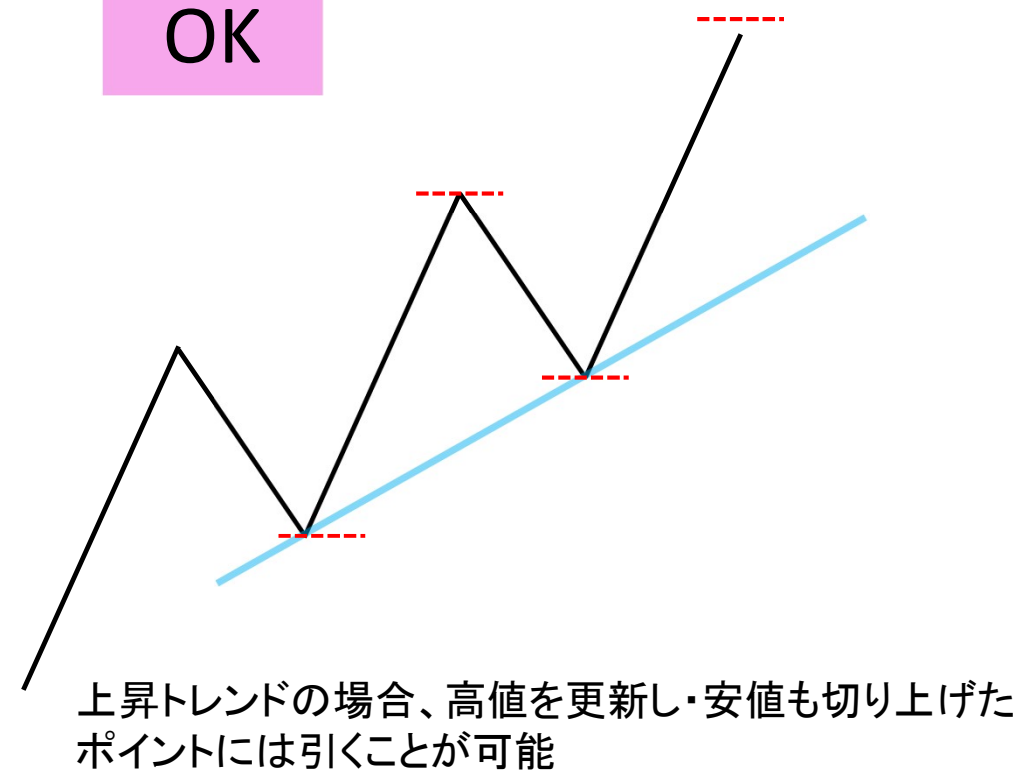


フィボナッチ・TLの引き方etc..

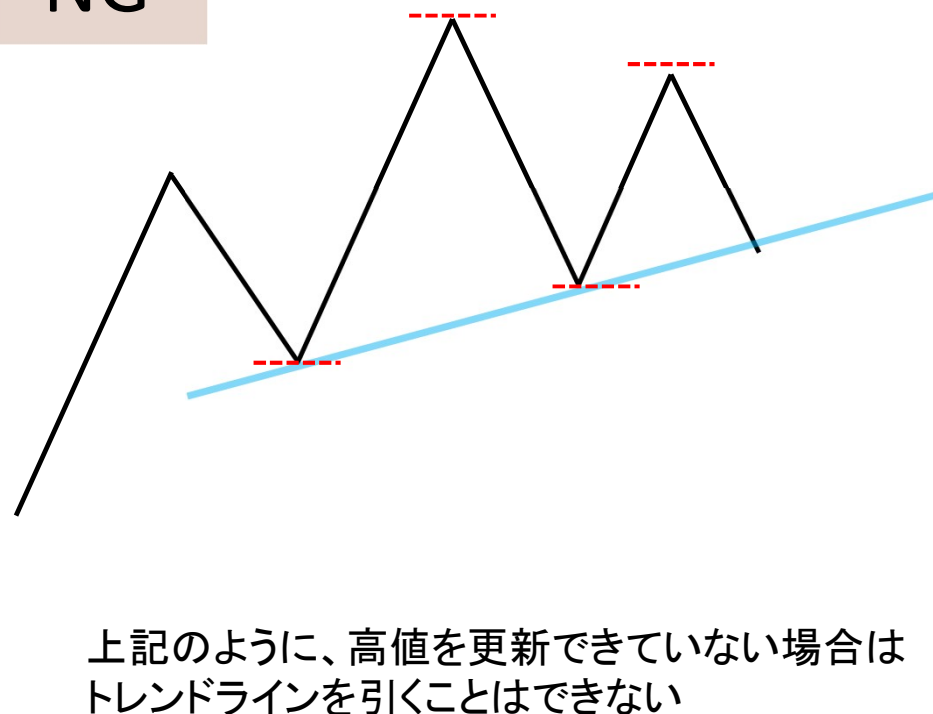
トレンドラインの引き方

相場の勢い(トレンド)が出ているときに引けるラインになります。
角度がついていれば、強いトレンドがでており
角度が緩ければ、弱いトレンドになります。
ダウ理論と同じ考えで、高安値が更新していればラインを引くことが可能です。

OK

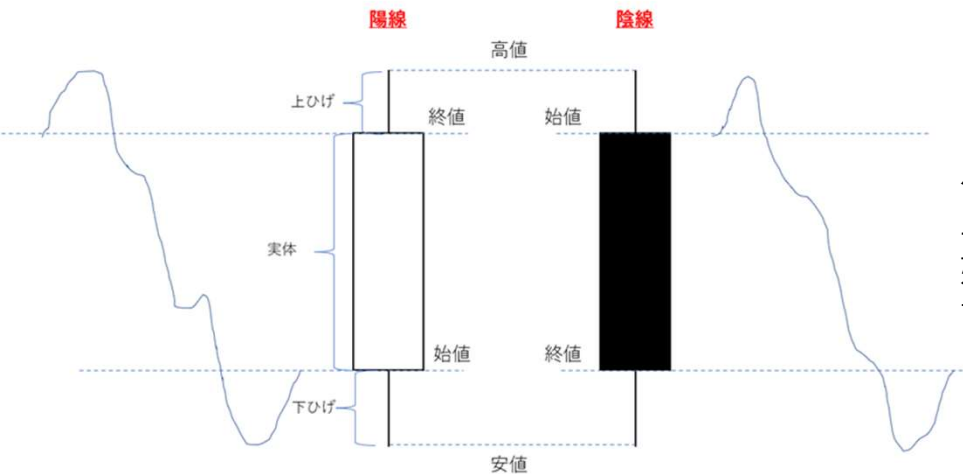


NG



ローソク足

値動きを視覚的に表す方法として、ローソク足・バーチャート・ラインチャート等様々なツールがあります。その中で、ローソク足というのは**4本値（始値・終値・高値・安値）**の値動きを時系列に沿って表示させたものです。ローソク足は1分足であれば1分経つことに1本形成され、5分足では5分で1本が形成され、1時間足では1時間に1本形成されます。値動きは連続的に動いているため、時間の概念はありませんが、見せ方を変えているだけです。



足の始まりを始値といい、そこから値が動いていき終値が始値より上になれば「陽線」といい、反対に下になれば「陰線」といいます。始値と終値で作られたボックスをローソク足の「実体」、実体から高値までを「上ヒゲ」、実体から安値までを「下ヒゲ」といいます。

上記の図は、ローソク足の形から予想される動きを表しています。(無数のパターンがあるので参考)

どのような動きで高値をつくったり、安値を作ったりするのは様々(無限)なパターンがあります。

ただし、**痕跡と始値・終値・高値・安値というのは、紛れもない事実として残ります。**

つまり、**ローソク足1本からでも、色々な情報を読み取ることができます。**

意外に深くまで理解しずに来てしまっている人も多いと思いますが、フラクタル構造等で悩んでいる方はローソク足を学びなおしてみると、スッキリするかもしれません。

移動平均線

移動平均線とは、一定期間における終値の平均値をチャート上に表したものです。

単純移動平均線(SMA)、指数平滑移動平均線(EMA)、加重移動平均線(WMA)などありますが、重きをどこに置くのかで計算式がちがいます。
今回はSMAしか使いませんので、そちらを説明します。

SMAは過去のn個のレートを平等に扱って計算します。(以降、SMAはMAと表記します)

教科書的に乗っていることは、インターネットで調べてください。

今回は、21SMAと200MAを使用しています。

21MAはMT5のデフォルト値です。21・200MAは、多くの方が使用しているかと思います。
(多くの方が使っていることは重要です。)

21MA(短期)は、今回波の基準化として使用しています。

200MAは、長期のトレンドを把握するのに使用することと、多くの方が使っているため反応が出やすいです。

移動平均線は角度も重要です。

移動平均線の角度急: **トレンドが強い**

移動平均線の角度が横ばい: **レンジ相場**

フィボナッチ①

FXで使われるのは、フィボナッチ数列からフィボナッチ比率という数式の考え方がベースになっており、フィボナッチを使ったインジケーターだけでも

- ・ フィボナッチリトレースメント
- ・ フィボナッチエクспанション
- ・ フィボナッチアーク
- ・ フィボナッチタイムゾーンとほかにも、数個あります。

フィボナッチリトレースメント・・・リトレースとは引き返す・後戻りすると意味です。

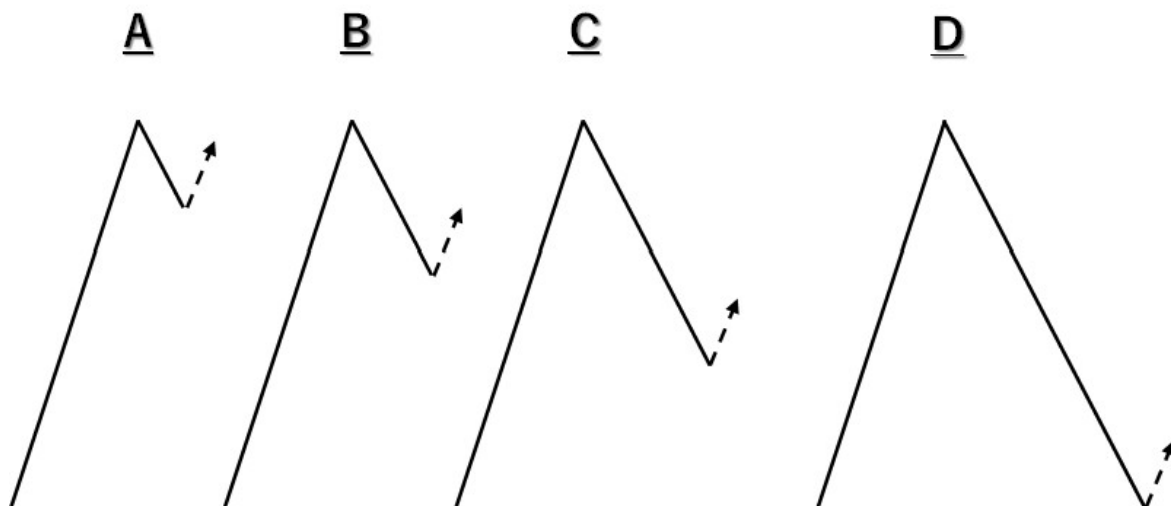
つまり調整波の事を指しており、押し目買いや、戻り売りのタイミングを図るのに使用します。今回の手法でも、押し目買いや、戻り売りを行うものになっています。

フィボナッチエクспанション・・・拡大という意味であり、相場がどこまで拡大するのかを予想するツールです。

今回は、パターンEでの利確位置を予測するのに使用しています。

E値やN値を使用してもいいのですが、パターンEは起点の波が小さいことが多いです。そのため、起点の波のリズムで進むことが多いのでエクспанションを使用しています。

フィボナッチ②



価格が上昇後落ちてきました(調整波)、
あなたならどこで買いたいと思いますか？
なるべく安い位置で買いたいですよね？

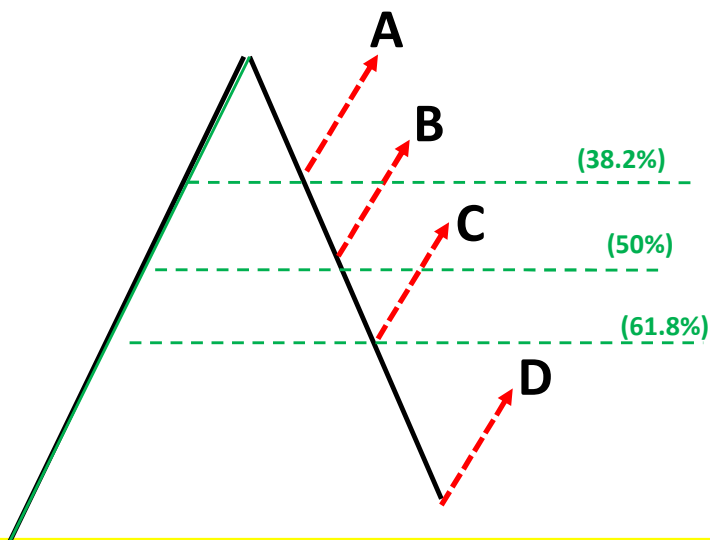
A: まだ高い位置だと感じる

B: 買ってもしいかな

C: そろそろ買いたいな

D: 値下がりしすぎて怖いな

このような心理が働くと思います。



BやCの位置というのが、フィボナッチリトレースメントの38.2~61.8%の領域です。
つまり、人間の心理的に買いやすいポイントということで
フィボナッチは人間の心理に基づいたツールということです。

最後まで目を通していただいていたありがとうございます。

充実したトレード生活を送れることを応援しています。